

(CEPT : Clinical Competence Evaluation Scale in Physical Therapy)

<記載方法>

「理学療法における臨床能力評価尺度」(以下:CEPT)は、評価項目は53の項目に分けられた評価尺度です。53項目の詳細評価は4段階の段階付けにより評価されます。評価項目および4つの段階付けの内容を参考に、CEPTに直接“○”を記載してください。(必ず枠内に記載してください:記入例参照)

評価時間はおよそ10分程度です。

必ず枠内に記載
して下さい

* 記入例

	4	3	2	1
	他者に指導が出来るほど、十分に理解している	理学療法の実施に支障がない程度、理解している	ある程度の指導・指摘を受ける必要がある	多くの指導・指摘を受ける必要がある
良い例 ⇒ 評価項目			○	
悪い例 ⇒ 評価項目				○

<CEPTの段階付け>

CEPTの段階付けは4段階になっています

4: 評価項目に関して、他者の指導など無く実施が出来、さらに後輩やPT学生の模範になるほど高い能力を持っている状態。

3: 評価項目に関して、他者の指導が無く実施出来る状態。自立した状態。

2: 評価項目に関して、ある程度の指導や助言が必要なことがある状態

ある程度の指導とは: <頻度> 時々・1~2症例に1度、またはそれ以下
<程度> 簡単な助言・補足程度

* <頻度>・<程度>が異なる場合は、程度を優先してください

1: 評価項目に関して、多くの指導や助言が必要な状態

多くの指導とは: <頻度> 週に何度も~毎回
<程度> 詳細な指導・しっかりした・時間をかけた指導

* <頻度>・<程度>が異なる場合は、程度を優先してください

理学療法における臨床能力評価尺度（自己評価用）

CEPT: Clinical Competence Evaluation Scale in Physical Therapy

I. 基本情報

1. 評価日 年 月 日
2. 性別 男・女 年齢 歳
3. 現在の勤務地の属性に○を付けてください
 急性期 ・ 回復期 ・ 維持期(生活期)

II. 以下の評価項目に関して、あなた自身の能力を評価してください

1. 理学療法実施上必要な知識の理解	4	3	2	1
	他者に指導が出来るほど、十分に理解している	理学療法の実施に支障がない程度、理解している	ある程度の指導・指摘を受ける必要がある	多くの指導・指摘を受ける必要がある
解剖学・生理学・運動学等の基礎医学的知識				
脳血管障害や神経難病等の神経疾患				
骨折・関節の変性疾患・脊髄損傷などの整形外科疾患				
循環器・呼吸器・代謝疾患などの内部疾患				
医療保険、介護保険制度や診療報酬制度				
2. 臨床思考能力	4	3	2	1
	他者の模範になるほど、十分に実施出来る	理学療法実施上支障がない程度に実施出来る	ある程度の指導・指摘が必要である	多くの指導・指摘が必要である
患者・家族のニーズを把握して治療計画を立てることが出来る				
経過・合併症・薬・安静度等、医学的情報を把握して、それに応じた治療計画を立てることが出来る				
患者の社会背景・精神心理状態などを把握して、それに応じた治療計画を立てることが出来る				
患者の症状・障害・動作と検査結果について統合と解釈し、問題点を抽出することが出来る				
患者の病期(急性期・回復期・維持期など)を理解し、その病期に適した治療計画を立てることが出来る				
標準的な症状を示す患者と、現在担当している患者との相違点に気がつくことが出来る				
患者の経過・予後を理解し、将来を見据えた治療計画を立てることが出来る				
患者の症状・障害に応じた、多様な治療計画を立てることが出来る				
一つ一つ治療がどのような効果を引き出すかを考えながら治療することが出来る				
自分の行った治療を振り返り、効果判定を行うことが出来る				

3. 医療職としての理学療法士の技術	4	3	2	1
	他者の模範になるほど、十分に実施出来る	理学療法実施上支障がない程度に実施出来る	ある程度の指導・指摘が必要である	多くの指導・指摘が必要である
患者に対して妥当性の高い検査項目を選択し、信頼性の高い検査を実施することが出来る				
患者に負担をかけることなく、効率良く検査を実施することが出来る				
患者の症状に合わせた接し方・触れ方ができ、不安・痛みを感じさせずに検査・治療を実施することが出来る				
患者を確実に改善させるだけの治療を実施することが出来る				
患者の行動変容を促す指導を実施することが出来る				
他職種・家族に安全で安楽な介助方法等の指導を実施することが出来る				
他者が読んでも理解可能で、要点をとらえたカルテ・レポートを記載することが出来る				
文献検索方法など、最新知識や知りたい情報を入手することが出来る				
理学療法の後輩・学生に対して的確にアドバイスすることが出来る				
リスクに配慮しながら治療を実施することが出来る				
患者の急変時の対応や救命法などを適切に実施することが出来る				
患者・家族・他部署などからのクレームに対して的確に対応することが出来る				
4. コミュニケーション技術	4	3	2	1
	他者の模範になるほど、十分に実施出来る	理学療法実施上支障がない程度に実施出来る	ある程度の指導・指摘が必要である	多くの指導・指摘が必要である
患者の背景や状態に合わせて共感的にコミュニケーションをとることが出来る				
患者・家族の真のニーズを引き出すためのコミュニケーションを実施することが出来る				
評価結果・治療方針を、患者が十分理解できるように説明をすることが出来る				
他職種とのコミュニケーションが図れ、患者に関して必要な情報を得ることが出来る				
自分の考えをまとめ、他者、外部に伝える能力がある(プレゼンテーション能力も含む)				
人の話を聞き、正しく理解することが出来る				

5. 専門職としての態度	4	3	2	1
	他者の模範になるほど、充分に実施出来る	理学療法実施上支障がない程度に実施出来る	ある程度の指導・指摘が必要である	多くの指導・指摘が必要である
社会人として適切な接遇・身だしなみ・言葉使いを実践することが出来る				
職場のマニュアルやルールを守ることが出来る				
自ら進んで雑用を行い、他の職員が働きやすい環境をつくる事が出来る				
謙虚な姿勢で、患者に接することが出来る				
指摘されたことや、失敗したことを真摯に受け止め修正することが出来る				
対応が難しい患者に対して、諦めることなく、最後まで最大限努力することが出来る				
担当セラピストとして、患者の治療に責任を持つことが出来る				
患者から治療を拒否されることがなく、患者からの信頼感を得ることが出来る				
他スタッフや他部門からの信頼感を得ることが出来る				
他者のことを最優先し、他者に尽くすことが出来る				
他職種を理解し、他職種の意見を尊重して関わることが出来る				
理学療法士という専門職としての態度で、治療を行うことが出来る				
6. 自己教育能力	4	3	2	1
	他者の模範になるほど、充分に実施出来る	理学療法実施上支障がない程度に実施出来る	ある程度の指導・指摘が必要である	多くの指導・指摘が必要である
経験したことを、今後の治療・業務に応用・展開することが出来る				
常に向上心を持ち、学び続けることが出来る				
先輩や、他職種などに積極的に質問することが出来る				
自分の専門分野や興味のある分野を持ち、自ら進んでさらに深めることが出来る				
7. 自己管理能力	4	3	2	1
	他者の模範になるほど、充分に実施出来る	理学療法実施上支障がない程度に実施出来る	ある程度の指導・指摘が必要である	多くの指導・指摘が必要である
自らの行動を、客観的に分析し、自己判断することが出来る				
自分の出来ること出来ないことを把握し、出来ないことは他者に依頼するなどの対応をすることが出来る				
組織の中で自分の役割を理解し、それに則した行動を行うことが出来る				
体調管理や予定管理など、業務に支障を来さないよう、自分自身を管理することが出来る				